



特集

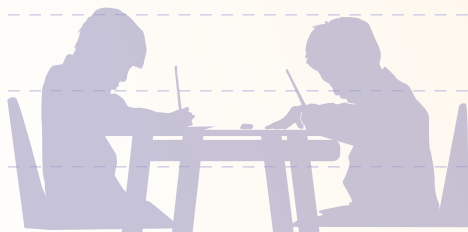
「小6 最難関模試」

中学入試レポート

難関校“合格”のカギは、 入試問題にもう一歩近づく 学力と適性を培うこと！

今回の小6・小5対象「最難関模試」は、年に1回の貴重な機会。チャレンジしてくれた受験生の皆さんには、ぜひここから、志望校の入試を突破するための、何らかの手がかりをつかんでほしいと思う。

2020年の入試本番まで残り約2~3か月となったが、まだまだこれからが本格的に“実戦で生きる力”を身につける段階だ。今回の成績や判定結果をバネに、目標に向けてラストスパートを見せてほしい。そして保護者の皆さんには、もう迷うことなく、わが子が第1志望校にチャレンジしていく覚悟を固めるための後押しをしてあげてほしいと思う。



首都圏模試センター

第1志望校は、もう動かさない。 強い意思をバネに果敢な挑戦を！

今回の「最難関模試」を受けてみたお子さんの手応えは、どのようなものだったろうか。今回の判定結果からは、いま親子で決めている志望校に対して、さまざまな手がかりや実感が得られることだろう。ただし何度もうのように、志望校への合格判定の結果が良くても決して油断してはいけないうし、また、結果が予想より悪くても、気に病む必要はない。

こうした模試は、あくまでも合格可能性の一端を探るものであり、自分の学力（成績）について、ある母集団のなかで相対的な位置を探るためのもの。つまり同じ高い目標をめざす仲間のなかで「力試し」をすることが本来の目的だ。

今回の「最難関模試」は、いつもの「統一合判」と比べても出題の難度は高めで、受験生の母集団も選り抜きの優秀生ばかりであったことを考えれば、なかには厳しい結果もあったことだろう。

しかし、保護者のみなさんをお願いしたいのは、今回どういう結果であったとしても、第1志望校については、もう迷わないでほしいということだ。この時期まで親子で考え抜いて決めた志望校ならば、今後どういうことがあっても、動かす必要はない。中学入試はたった1度きりのチャンスなのだから、むしろ残り約60日～90日の間に、入試本番で良い結果を残せるよう、全力でラストスパートをかけていく強い意思を固めるべきなのだ。

そういう意味でも、この時期まで難関校にチャレンジする気持ちをしっかりと持ち続け、がんばってきた受験生と保護者の皆さんには、賞賛と励ましの言葉を贈りたいと思う。

これまで2年ないし3年の受験準備の期間に、高い目標に挑む気持ちを維持したままで、それぞれ



男子受験生にとつての首都圏私学の最難関、開成の2月1日の入試風景。

ペースをつくって受験勉強を続けてきた、その意思の力と地道な歩みこそ、これから入試に向けての自信にしてよいものなのだ。

難関校に挑む気持ちと目標をバネに、 入試直前まで学力アップをめざす！

以前にも本レポートで、「小学生の学力は入試直前まで伸びる」と強調したことがある。まだ12歳で成長期の真っ只中にある小学生だからこそ、ひとつ自分にとっての「飛躍のきっかけ」をつかむことができれば、学力も精神力も大人がびっくりするほど急成長する。そういう例は決して珍しくない。

その点でも、こうした難関校の入試へのチャレンジを目標におき、最後の最後まで努力を重ねることが、そうした「学力の急成長」への最も効果的なステップになる。

たとえ現段階で、めざす難関校の“合格”への自信までは持てていなくとも、自分自身にとっての課題をある程度つかみ、それを消化、克服でき、「いけるかも？」という手ごたえを感じられた受験生であれば、これからの時間に何を集中課題として取り組めばよいのかを、だいたいは理解できているはずだ。

そこまで到達しているお子さんならば、あとは



迷うことなくラストスパートに励めばよい。ここまでできたら、親はお子さんのそうした姿を見守り、側面から生活リズムや健康管理のサポートをしてあげるだけで十分だ。

難関校に挑んでいく意義は、決して“合格”だけにあるのではない。自分自身でがんばれば手が届くぎりぎりの高い目標を掲げ、それに向けて毎日の努力を重ね、より幅広い知識や深い理解を得ていくこと、それ自体に大きな意味がある。それがこの先、中学に進学してから必要になる学力と「自ら学ぶ力」を日々育てていくことになり、将来にもつながる力となる。

そういう過程の延長線上に、めざす志望校の“合格”がある。そう考えることができれば、難関校に迷わず果敢に挑戦していく意義は大変に大きなものがあるのだ。

志望校の過去問題を指標にして、合格点をもぎ取るカギを探ろう！

そして、これから入試本番までに取り組み、合格への突破口を探る最も有効な手段として、ここでは何より「志望校の過去問題に徹底して取り組む」ことを強調しておこう。

中学入試では、各学校のカリキュラムや学習指導方針が反映した独自の個性的な出題と向き合ったときに、そこで「合格点が取れるかどうか」が本当の勝負。こういう各校の「出題の個性」と正面から向き合う学習が必要になる。いよいよその時期がやってきたわけだ。

志望校の入試問題に慣れ、その内容や意図するところを感じ取り、いざ来春2020年入試の本番で新たな出題と向き合ったときに、「あのときやった問題と似た出題だ」と思えたならば、もうしめたものだ。

女子受験生にとつての首都圏私学の最難関、桜蔭の2月1日の入試風景。



そういう実感と、出題をひと通り見渡したときに「この問題から解いていこう」という手順を判断できる“見極めの力”が身につけば、なおさら自信をもってよい。こうした手応えに近いものを、入試直前までに何度か実感できることができたならば、合格にあと少しで手の届くところに来たと考えてよいだろう。

こういった自信を持てるように、何度でも志望校の過去問題に、繰り返し取り組むことが大事なのだ。残り約2か月と少し、それらの問題に寄り添っていくことができれば、きっとお子さまにとっても、保護者の皆さんにとっても、来春2020年の中学入試での受験体験は、必ずや実り多きものになるはずだ。

親としての最後の大事な役割は、万全の併願作戦を立ててあげること！

最後に、お子さん自身が第1志望とする難関校に「思い切り挑んでいく」ためには、どういう結果が出た場合でも、くじけずに最後まで受験し続け、親子とも「やるだけのことはやった」と思えるような、万全の併願作戦が必要だということを忘れないでほしい。

現在の中学入試では、相当な難関校であっても複数回の受験チャンスがある。実際にそうした学

第1志望校はもう迷わずに、強い気持ちで目標に向かおう！

～残り約60日～90日間の努力で、一歩ずつ“合格”に近づこう！～

これまでも本レポートでは、繰り返し「第1志望校は迷わずに」と述べてきた。誰に遠慮することなく、親子で自由に選んだ学校に「思い切りチャレンジしていける」ことこそが、中学受験の特色であり、魅力でもあるからだ。

そしてここでは、その第1志望校への挑戦のステップとするためにも、そのほかの併願校を幅広く選び、慎重な併願作戦を立てる必要があることを、再度強調したいと思う。

今回の小6「最難関模試」で合格判定の対象になっている難関校にチャレンジしていこうという受験生のご家庭ならば、一方でそのための併願作戦も、すでにしっかりと組み立てているに違いない。

それならば、なおさらこの時期には、決して「第1志望校を迷う必要はない」ということを、あえてもう一度お伝えしたいのだ。

最近の中学入試では、難関といわれる学校ほど、各校の理念や主張を、それぞれの入試問題に色濃く反映させ、いっそう個性的な出題をするようになっている。

そうした個性的な入試問題に立ち向かい、合格を得るためには、「偏差値からは見えてこない」ポテンシャルや、「偏差値を乗り越える」だけの気力と学力(=合格力)が求められる。



首都圏中学入試の最初のヤマ場、1月5日の栄東A日程の入試には約5000名の受験生が集結する！

そして、そうした「偏差値を超える」合格力を身につけるには、これから2月1日までの残り約90日間の努力と、それを支える親子の強い意思(思い)が欠かせないのだ。

何度も繰り返すが、今回の判定がどうであろうとも、親子で十分に検討を重ね、これまで過去問題に取り組んできたなかで、ある程度具体的な課題がつかめている学校ならば、もう第1志望校について迷う必要はない。

成績や判定結果、さらには過去問題演習から見えてきた、それぞれの課題を克服すべく、残された時間を有効に使って、一歩ずつ確実に“合格”に近づいてほしいと思う。

校が第1志望の受験生ならば、当然ながら、1回目の入試の結果が悪くても、再度挑戦することを視野に入れているはずだ。

そうした再挑戦の際にも、受験スケジュール(併願作戦)のなかに、ほかに1校でも自信をもって挑める「押さえ」の学校(ほぼ確実に合格が取れそうな学校)があれば、その“合格”結果や安心感をステップにして、第1志望校に思い切り再挑戦(リベンジ!)していくことができる。

わずか12歳の小学生が挑む中学入試だけに、本番では何が起きるかわからない。どんな場合にも、

前向きな気持ちで受験を続けていけるような、2段、3段構えの“合格”プランを考えておくことが大切なのだ。

もうひとつ、あえてお伝えしたいのは、こうした勇気ある「難関校への挑戦」に踏み切った親子だからこそ、悔いは残してほしくないということだ。もし結果として第一志望以外の学校に進学することになったときには、親子ともども当初の第1志望への未練を吹っ切って、合格した学校に「胸を張って」進学して(進学させて)ほしい。

そして、新たな気持ちで、中高6年間の学校生



志望校の過去問題に徹底的にあたり、それとの“相性”や“適性”を育てよう！

～私学の教科指導方針の反映である入試問題から、合格へのヒントを探し出そう～

これまで毎年、この時期の本レポートでは、「各志望校の入試問題との“相性”や“適性”をしっかりと探り、その芽を育てる！」ことが大切だとお伝えし続けてきた。そしていま、10月末を迎え、いよいよ志望校の過去の入試問題に本格的に集中して取り組むべき時期がやってきた。

夏休みを終えて間もない時期では、過去問題を解こうとしても、まだ半分も解けなくて、かえって自信をなくしてしまうようなケースもおそらくはあったことだろう。

しかし、いまならきっと、もう1歩も2歩も、先の段階まで解き進めるだけの力が身についてきたことと思う。いまはまだ、合格点に達するところまで解けなくてもかまわない。ただし、この先は、各志望校の過去問題に積極的にあたり、入試問題と真剣

に向き合うことを通して、作問者の意図を感じ取り、そこで求められる力をひとつずつ身につけていってほしいのだ。

私学の入試問題が即ち、その学校の6年間の指導方針や中高一貫のカリキュラムを反映したものだとなれば、その学校の入試問題に徹底的にあたることで、その学校との学力的な“相性”や“適性”を育てることにつながる。

何より入試問題に正面から向き合い、そこで求められている力を探ろうと努力することで、非常に多くのことを吸収することができ、それだけ“合格”に近づくことができる。

こういうラストスパートがうまくいけば、偏差値のうえでは見えてこなかった「合格可能性」が、グンと身近なものになってくるはずだ。



最難関校をめざす多くの女子受験生が集う2月2日の豊島岡女子学園中の入試風景。



1月の千葉エリア入試の風物詩となっている市川中の1月20日幕張メッセ入試には毎年大勢の受験生が集結する！

活へ踏み出してほしいのだ。自分の力で合格して進学した学校をお子さん自身が「自分にとっての最良の学校」と受け止め、良い友達をつくって勉強にもクラブにも打ち込み、楽しく豊かな6年間を送ることができれば、それが本人にとっての、将来に向けた大きな自信を育ててくれる。

まだ12歳の柔らかな感性を持つ子どもたちだからこそ、受験生本人はそういう現実の入試結果

に自然な割り切りができ、進学した学校にもすぐ馴染むことができる。

だからこそ中学受験の世界では「受かった学校がその子にとっての一流校」といわれ続けてきたのである。

そしてそうした“吹っ切れた”気持ちで本番に挑むことができれば、来春2020年入試の結果もきっと良いものになるはずだ。

「統一合判」をはじめとした各模試や、
多様な私立中入試で問われる力を
「思考コード」で読み解く

ここで、一昨年から首都圏模試センターの模試
に導入され、昨年からは個々の受験生の成績表に
も出力（掲載）されるようになった「思考コード」
について、あらためてご紹介しておきたい。

この「思考コード」は、それぞれの模試で出題
される個々の問題ごとに「問われる力」を、タテ
ヨコ9つのマス目の表のように分類し（作問の段
階でそれぞれの問題が問う力を、この「思考コード」
に基づいて設計し）、それぞれの領域（マス目）の
力ごとの正答率や偏差値を算出して、受験生一人
ひとりの強みや弱点（課題）などの学力特性を表
す形で成績表にも表現したものだ。詳しい説明を
するには誌面が足りないが、ここでは、例月の「統
一合判」の問題や、難関私立中の（難易度の高い）

実際の入試や模試の問題（適性検査をはじめ、私立中の適性検査型・総合型入試、思考力テスト）で
主に出現される問題も「思考コード」に当てはめて分類・分析することができる

最難関模試 ⇔ 御三家&難関校

変換 操作	全体 関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑 操作	カテゴリズ	複雑 2	A2	B2	C2
手順 操作	単純 関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造

統一合判 ⇔ 中学受験スタンダード

変換 操作	全体 関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑 操作	カテゴリズ	複雑 2	A2	B2	C2
手順 操作	単純 関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造

思考コードとは？

変換 操作	全体 関係	変容 3	配点 18 得点 6 正答率 33.3	A3	配点 7 得点 7 正答率 100	B3	配点 7 得点 0 正答率 0	C3
複雑 操作	カテゴリズ	複雑 2	配点 40 得点 22 正答率 55.0	35	配点 25 得点 25 正答率 100	68	配点 25 得点 0 正答率 0	C2
手順 操作	単純 関係	単純 1	配点 40 得点 22 正答率 55.0	49	配点 85 得点 25 正答率 29.4	48	配点 85 得点 0 正答率 0	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造			

※この成績（思考コード）の見方は、4ページ目にごさいます。

入試問題、公立中高一貫校の「適性検査」問題、
私立中の「思考力入試」で問われる範囲を示した
図を下にご紹介しておこう。

比べてご覧いただくと、それぞれの入試（模試）
タイプで問われる力の範囲が、かなり明確に異なっ
ていることが理解できるだろう。

たとえば、公立中高一貫校の「適性検査」や、
私立中の「思考力入試」では、たて列の「A領域（＝

思考力テスト

変換 操作	全体 関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑 操作	カテゴリズ	複雑 2	A2	B2	C2
手順 操作	単純 関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造

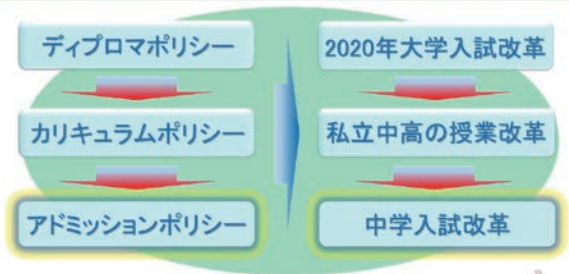
公立一貫模試 ⇔ 適性検査型・総合型

変換 操作	全体 関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑 操作	カテゴリズ	複雑 2	A2	B2	C2
手順 操作	単純 関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造



特集 難関校“合格”のカギは、入試問題にもう一步近づく学力と適性を培うこと！

大学入試改革を先取りした中学入試の変化



知識・理解)の力が問われるのではなく、「B領域(=応用・論理)や、学校によっては「C領域(=批判・創造)の力が問われることになる。

そこにチャレンジする受験生としては、それぞれの入試に挑むための学習の仕方や学力観も、一般的な私立中入試とは異なるものとして理解しておくが良い。

今回の「最難関模試」の受験生ならば、他の入試(模試)の出題傾向も把握したうえで、前のページ下段の分類の左上「最難関模試⇨御三家&難関

校」の出題傾向をとくに意識して、今後の受験勉強の指針としていただくとよいだろう。

つまり、たて列の「A領域(=知識・理解)」と「B領域(=応用・論理)」では、数的には一段と高度な「複雑操作」、「変換操作」のできる力が問われ、言語的にもやはり高いレベルでの「カテゴライズ」や「全体関係」を把握できる力が問われると理解しておくといよい。

この「思考コード」と、それぞれの領域に当てはまる出題を、多くの日本人が知っているフランスコ・ザビエルを題材に例示したものが下の表だ。このような形でご覧いただくと、イメージもしやすくなることと思う。

そして、今回の最難関模試の「解答と解説」冊子にも、各設問が「思考コード」のどの領域の力を求めるものなのかということと、その問題を解くために必要な「思考スキル」が明示されている。そうしたヒントも参考にして、志望校に向けた学習に役立ててもらおうと良いだろう。

「たとえばどんな問題？」……フランスコ・ザビエルを題材にした「思考コード」の各領域の出題例

変換操作	全体関係	変容 3	ザビエルがしたこととして正しい選択肢をすべて選び年代の古い順に並べなさい。 A3	キリスト教の日本伝来は、当時の日本にどのような影響を及ぼしたのか、200字以内で説明しなさい。 B3	もしあなたが、ザビエルのように知らない土地に行って、その土地の人々に何かを広めようとする場合、どのようなことをしますが、600字以内で答えなさい。
複雑操作	カテゴライズ	複雑 2	ザビエルがしたこととして正しい選択肢をすべて選びなさい。 A2	キリスト教を容認した大名を一人あげ、この大名が行ったこと、その目的を100字以内で説明しなさい。 B2	もしあなたが、ザビエルだとしたら、布教のために何をしますか。具体的な根拠と共に400字以内で説明しなさい。
手順操作	単純関係	単純 1	(ザビエルの写真を見て)この人物の名前を答えなさい。 A1	ザビエルが日本に来た目的は何ですか？50字以内で書きなさい。 B1	もしあなたが、ザビエルの布教活動をサポートするとしたら、ザビエルに対してどのようなサポートをしますか。200字以内で説明しなさい。
(数)	(言語)		A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造



2025年度の大学入試にもつながる 「適性検査」・「適性検査型入試」の 問題を解く力

約1年2ヶ月後に迫った「2020年度大学入試改革」を皮切りに大きく変わる今後の大学入試で問われる力を、この首都圏模試センターの「思考コード」にあてはめてみると（右下の図）、文部科学省が示している図と、ぴったりと重なる。

つまり、公立中高一貫校の「適性検査」の出題や、私立中の「適性検査型入試」、さらには「思考力入試」をはじめとした多様なスタイルの入試で問われる「B領域（＝応用・論理）」や「C領域（＝批判・創造）」の力は、すなわち、いまの小学6年生が改革から5年目の当事者となる、2025年度の新たな大学入試で問われる「論理的思考」、「創造的思考」の力ということになる。

そういう意義も知っていただいたうえで、今後の受験勉強や日常の学習を進めていただくと、お子さんの7年後の大学入試と、その先の社会でも役立つ力が理解でき、難関校に向けての学習の励みにもなるはずだ。



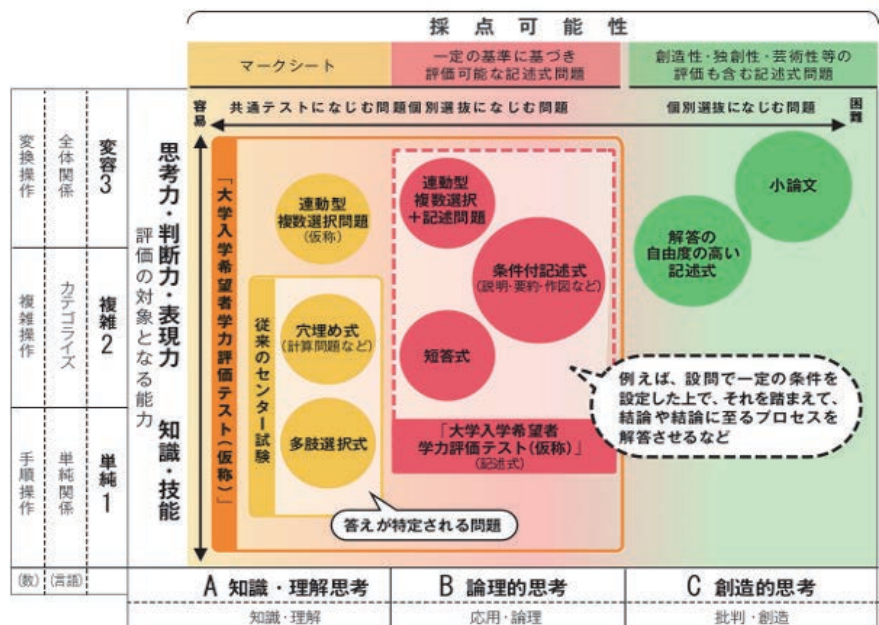
大型の記述問題では「思考コード」の「C領域（＝批判・創造）」の力も問われる麻布中の入試風景

首都圏模試センターの「思考コード」で
多様な中学入試の思考のレベルの特徴を知る

首都圏模試も偏差値以外の評価軸					
変換操作	全体関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑操作	カテゴリズ	複雑 2	A2	B2	C2
手順操作	単純関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」と それらを評価する方法のイメージ例（たたき台）

平成 27 年 12 月 22 日
高大接続システム改革会議・配布資料



※上記、○囲み部分は、あくまで問題形式の一例として挙げたもの。